

令和6年度第2回川口市地域保健審議会会議録

- 1 開催日時 令和6年7月29日（月）午後1時30分～午後2時30分
- 2 開催場所 鳩ヶ谷庁舎 2階大会議室
- 3 出席者 **【委員】** 16人
長江厚、倉田豊、小寺慶二、永井晃、福田亨、鈴木剛、関美雪、茂野明也、宗像幸彦、渡邊謙、阿部広美、久保和見、増田泰子、大沼早苗、歌川光一、岩本好則
【事務局】 17人
小澤保健部長、岡本保健部理事兼保健所長、矢崎保健総務課長、加藤管理課長兼保健所副所長、西尾疾病対策課長、五十嵐健康増進課長、諸橋地域保健センター長、大澤生活衛生課長、石神食品衛生課長、青木衛生検査課長、今井保健総務課課長補佐、古川保健総務課課長補佐、森口管理課課長補佐、池田保健総務課主査、梅田保健総務課主任、塩見保健総務課主事、神野保健総務課主事補
- 4 議題
報告事項 1 川口市保健所の令和5年度実績（速報値）について
2-1 川口市健康・生きがいつくり計画および食育推進計画の昨年度の取り組み状況について
2-2 川口市健康・生きがいつくり計画および食育推進計画（第3次）の策定状況について
- 5 会議の概要 (1) 開会
(2) 会長挨拶
(4) 議題
(5) その他
(6) 閉会

議 事	
事務局	開会にあたり、会長より挨拶を賜りたい。
会長	本日の議題は「川口市保健所の令和5年度実績（速報値）」の報告と「川口市健康・生きがいづくり計画・食育推進計画」の昨年度の取り組み状況および次期計画の策定状況の報告である。皆様から率直なご意見をいただき、有意義な審議会となることを期待する。
事務局	本日、傍聴希望者は1名である。 また、委員定数18人のところ16人が出席しており、審議会条例第7条第2項に基づき、本会議は成立する。
事務局	審議会条例第7条第1項の規定に基づき、会議の議長は会長が務めることとなるため、進行を長江会長にお願いする。
議長	議事録作成にあたり、議事録署人を2人指名する。（異議なく、承認された。）
議長	報告事項1「川口市保健所の令和5年度実績（速報値）について」の説明を求める。
事務局	～資料「報告事項1」に基づき説明を行った～
議長	意見等はあるか。
委員	新型コロナウイルスワクチン接種の自己負担額が非常に高額と聞いたが、実際どうなのか。また、知人が新型コロナウイルス感染症に感染した際、病院にて治療薬の処方箋を発行してもらったため周辺の薬局を何件も訪ねたが、どの薬局にも置いておらず結局手に入らなかった。新型コロナウイルス感染症の治療薬の流通状況はどうなっているのか。
事務局	新型コロナウイルスワクチン接種については65歳以上の方および60～64歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）による免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方を対象とした定期接種となる。自己負担額は、国が接種費用を15,300円と示していることを踏まえ、本市においても定期接種の対象の方の自己負担額が安価に抑えられるよう補助する方針で検討している。

事務局	<p>新型コロナウイルス感染症の経口薬を取り扱っている薬局が限られていることは、保健所として認識している。国の補助を受けられた令和6年3月31日時点で、市内において約15カ所の薬局でしか取り扱っていなかった。薬が不足しているといった話は聞かないことから、薬価が高いことなどが影響しているのではないかと思慮する。</p>
議長	<p>薬局が関係する内容なので、薬剤師会の委員のご意見を伺いたい。</p>
委員 (薬剤師会の委員)	<p>新型コロナウイルス感染症が5類へ移行してから、状況は大きく変わってきている。国の施策が、感染症治療薬から生活習慣病治療薬の創薬へシフトし、感染症治療薬については海外からの輸入に頼らざるを得ない状況となってしまった。また、国は厳しい財政状況を鑑み、より安価なジェネリック医薬品の普及を推し進めてきた。しかし、ジェネリック医薬品を製造するメーカーは、大手メーカーと比較して生産力や対応力が低い場合が多く、国としてそのようなメーカーの育成なども行ってこなかった。このような状況下で、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが発生し、治療薬および症状を抑える薬の生産が追い付かなくなってしまった。現在は数年間続いた厳しい状況ではないものの、未だ、症状を抑える薬を中心に流通がうまく回っていない状況である。これらを踏まえ、やはり海外からの輸入に頼らざるを得ず、治療薬が高額になっているのが現状である。例えば、5日間投与の「ラゲブリオ」は薬価ベースで94,300円程、「パキロビッド」は薬価ベースで99,000円程と高価である。これに対し、国内企業である塩野義製薬が製造した5日間投与の「ゾコーバ」は薬価ベースで51,651円である。このように、国内で薬を生産すれば価格は抑えられたのではないだろうか。ちなみに、同じ5類のインフルエンザ治療薬「イナビル」は第一三共が開発したもので、薬価ベースで4,300円程度であり、コロナ治療薬と大きく差がある。加えて、薬局は病院が出した処方箋に対応し、患者の状態に合った薬を提供するため、あらゆる種類の薬を準備する必要がある、処方の可能性のある薬をすべて準備する場合、患者一人当たり薬価ベースで250,000円程必要となる。さらに、咳止めやたん切り、気管支拡張剤といった、症状を和らげる薬についても十分に流通していない。これらを勘案し、あらゆる薬を十分に揃えることに躊躇している薬局もあるのではないか。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、薬局の倒産件数は減ったものの、中小薬局を中心に未だ経営状態は芳しくない。最近では厳しい物流状況の影響により、これまで慣例的になされていた給配（不足した薬を適宜補給してもらう方法）や不要になったり使用期限が近づいた薬の返品もほぼ対応してもらえ</p>

	<p>ない状況である。中小薬局を取り巻く、こういった背景についても理解していただきたい。</p> <p>一方、薬の流通については、国が進める「医療 DX」におけるオンライン診療やオンライン指導、電子処方箋がより整備されることで、状況は改善されると考える。もちろん、理想は市内の各薬局が即座に処方に対応できる状況だと思慮するが、薬局や薬剤師がこれまで述べたような状況に置かれていることをご理解いただきたい。</p> <p>※医療 DX…保健・医療・介護の各段階（疾病の発症予防、受診、診察・治療・薬剤処方、診断書等の作成、診療報酬の請求、医療介護の連携によるケア、地域医療連携、研究開発など）において発生する情報やデータを、全体最適された基盤（クラウドなど）を通して、保健・医療や介護関係者の業務やシステム、データ保存の外部化・共通化・標準化を図り、国民自身の予防を促進し、より良質な医療やケアを受けられるように、社会や生活の形を変えること。（厚生労働省 HP「医療 DX について」より抜粋。）</p>
議長	<p>こういった事実は市民にとって一般的ではなく、例えば 100,000 円の薬を 3 割負担で購入する場合、「そんなに高いなら薬はいらぬ。」と断る患者もいる。これでは、薬局としては高価な薬を揃えるのはリスクが高く、売れ残ってしまった場合は赤字になってしまう。委員の皆さんには、市民の方々から同様の質問を受けた場合などに説明いただけると有難い。</p>
議長	<p>報告事項 2 「川口市健康危機対処計画（感染症）について」の説明を求める。</p>
事務局	<p>～資料「報告事項 2 - 1」に基づき説明を行った～</p>
議長	<p>意見等はあるか。</p>
委員	<p>報告事項 2 - 1 参考資料（1） P. 2 No. 19 に「こころの健康講座」があるが、心の健康というと良質な睡眠が大事だと思うが、睡眠と健康の関係性について、この講座の中では考慮されているのか。</p>
事務局	<p>睡眠については、食事や運動と同じく健康づくり、疾病予防に欠かせない生活習慣だと認識している。第二次川口市健康生きがづくり計画において、休養・心の健康に関する指標の一つとして、睡眠による休養を十分に取れていない方の割合の減少を謳っており、目標を 15% 以下としている。保健部としては、No. 19 「こころの健康講座」のほか、No. 24 「健康教育」、No. 33 「母子健康教室事業」No. 35 および 36 「保健指導」等の保健事業に取り組んでいる。</p>

委員	<p>また、次に報告する報告事項 2-2 の別紙 2～6 の調査において、睡眠や休養に関する設問を追加しており、回答の結果を踏まえ、睡眠が市民の健康に繋がるよう今後の取り組みに反映していく。</p> <p>私は、市の健康教室を 10 年担当しており、介護予防の重要性を認識しているが、介護予防を目的とした「健康アップ教室」や「健康運動教室」の参加者数が、高齢者人口と比較して非常に少ない。実施回数の妥当性や参加者の受講後の継続状況についてはどうなっているのか。また、介護予防ギフトボックス事業への参加人数が少なく、伸び悩んでいるといった話も聞いた。そもそも市民の目に触れるような場所に設置されていないようにも感じているが、市民への周知についてはどのような考えのもと行っているのか。</p>
事務局	<p>質問対象事業の担当課が出席しておらず、詳細についてはお答えしかねるが、国民健康保険課に在籍していた自身の知見から申し上げる。介護予防ギフトボックスに限らず、高齢者全体に対する健康寿命の延伸に係る事業への参加者数が少ないことは認識している。令和 4 年度から介護予防と健康寿命の延伸を一体化させた事業を開始しており、例えば国民健康保険加入者のみを対象としていた生活習慣病予防に係る事業を 75 歳以上の後期高齢者まで対象を拡げた。しかし、地区を限定していたりと未だ市全体へは行き届いていない。令和 6 年度から順次拡大していく予定だと伺っている。介護予防ギフトボックスについては、関係各課と連携し周知に努めていく。</p>
委員	<p>介護予防については、今後より重要な課題となるので、注力していただきたい。</p> <p>続いて、報告事項 2-1 参考資料 (1) P. 5 No. 49 「スポーツ教室」について、年齢を問わない事業であるにもかかわらず、参加者数が少ない。また、これらの事業について、コロナ禍を経て高齢者の参加数は増えている反面、お子さんと参加される方の参加数が減っているように感じる。今後の健康寿命の延伸という観点から、世代を問わず幅広い年齢層の方が参加できるような取り組みを考えるべきではないだろうか。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおり、健康寿命の延伸については若いうちからの取り組みが非常に重要であるにもかかわらず、まだ健康に不安の少ない世代の参加者数が少ない点が、課題であると認識している。例えば、国民健康保険課で行っている健診の受診率も大変低く、受診率向上のための様々な工夫も行っているがなかなか改善されない。こういった状況については、市として認識しているので、今後も状況を改善するための取り組みについて継続的に行っていく。</p>

議長	報告事項 2-2 「川口市健康・生きがづくり計画および食育推進計画（第3次）の策定状況について」の説明を求める。
事務局	～資料「報告事項 2-2」に基づき説明を行った～
議長	意見等はあるか。
委員	報告事項 2-2 P. 1 に「ライフステージに応じた健康づくりと生活の質（QOL）の向上に対する取組」とあるが、具体的にどのような取り組みを考えているのか。
事務局	学生への取り組みとして、小学校6年生と中学校2年生に対し飲酒と健康の関係について教育を行っているほか、小学校および中学校において年に1回、煙草を含む薬物乱用防止教育を実施している。加えて、スポーツ少年団等に対し小中学校の体育施設を開放し、身体活動の推進に寄与している。さらには、子育て世代への取り組みとして、妊娠・出産・育児・歯科・保育等に関する正しい知識の普及、健康維持を図るための母子健康教室のほか、産後ケアの一環として母子の訪問指導を行っている。最後に、18歳以上の市内在住・在勤・在学の方への取り組みとして、川口市民大学講座において生涯学習の一環として生きがい健康コースを開催している。
議長	「ライフコースアプローチ」という、各ライフステージを対象にした対策にとどまらず、幼児期から高齢期に至るまで人の一生を通して継続した対策を講じることを指す言葉があるが、市としてもこれに取り組んでいると認識した。
議長	次第4「その他」について、事務局からお願いします。
事務局	次回の地域保健審議会は令和7年2月3日（月）、鳩ヶ谷庁舎2階大会議室にて13時30分から1時間程度の開催を予定している。
議長	令和6年度第2回川口市地域保健審議会を閉会する。